

和歌山—自然と文化の詩的なすみか

テン ユンナ
教育学部 交換留学生 中国

「和歌山」という地名を初めて目にした時、私はどこか歴史が息づく穏やかな場所を想像した。「和歌」という言葉からは、三十一文字で千年の余韻を奏でる古い短歌が連想され、「山」という字には、万物を育む静かで深々とした重みを感じられた。留学生としてここで過ごした日々を通じて、私の最初の印象と重なる和歌山の魅力を実感することになった。



和歌山に初めて来たとき、まず目を奪われたのはその美しい景色だった。

ちょうど桜の季節で、大学にも、神社への参道にも、あちこちに桜が植えられていた。ここの桜はまさに和歌に詠まれたように、白く淡い紅色を帯び、枝いっぱいに咲き誇り、晴れた日には特に鮮やかだった。風が吹くと、花びらがひらひらと舞い落ち、石段や道端を埋め尽くし、川面に落ちれば、波紋が花びらの軌跡を描く—それはまさに詩情あふれる光景だった。



和歌山は雨の日も美しい。傘をさして歩いていると、大学近くの山々が鉛色の霧に包まれ、輪郭がぼやけて見える。雨の日に訪れた和歌山城では、しとしと降る雨の中、観光客もまばらで、池の水は澄みきり、雨に濡れた木々の緑が一層鮮やかに映った。雨さえも、景色を素敵に変えてくれることに気がついた。そんな静かで湿った空気の中、和風庭園で時の流れが緩やかに止まったような、静謐な気配が胸に染み渡ってくるわびさびをより深く感じることは印象的な体験だった。天候の良し悪しではなく、世界を受け止める心の在り方が景色を変えるのだと悟った。

留学生活は単なる風景の観賞ではなく、文化的視点の広がりでもある。和歌祭で唐人の役を演じた時、私は半日かけてパレードの列に加わった。様々な衣装をまとった人々の中を進みながら、御船歌の旋律がずっと耳に残っていた。見物人たちがお辞儀をしてくれるのを見て、和歌祭が単なる伝統行事ではなく、地元の人々の心に深く根付いた生きた記憶なのだと強く感じた。急速に発展する現代社会においても、伝統的

な役柄を見るために長い時間待ち続ける人々がいる。高い下駄を履き、遠くまで歩いて伝統を表現しようとする人々がいる。そこには伝統への敬意と愛、そしてこの土地の文化の独自性が息づいている。真の文化的なすみかは書物の中ではなく、地域の人々に受け継がれる祭りの記憶の中にあるのだ。

和歌山で私が見たものは、舞い散る桜や雨に煙る風景の美しさだけではなく、和歌祭の中に脈々と受け継がれる伝統文化、そして見る心が風景を変えるという気づきそのものだった。このような生活の中で、歩き、見て、感じることの大切さが、身をもって理解できるようになった。速いテンポの現代社会においても、自然への畏敬と伝統への尊重を忘れずにいたい。美を発見し、自然を愛でる目と、万物を大切にし、伝統を忘れない心を持ち続けたい。私が見た和歌山は、まさに自然と文化が調和した詩的なすみかなのである。

和歌山——自然与文化的诗意栖居之所

邓云娜
中国

和歌山，第一次看到这个地名时，就觉得是在形容一个历史悠久而安静祥和的地方。“和歌”二字，让我想起古老短诗，三十一音泛起千年的涟漪，宛转悠扬；而“山”字，则显出庄重之感，静谧且森森郁郁，承载万物。我想，古人为这方水土命名时，应是福至心灵吧。有幸以留学生的身份在这里生活了一段时间之后，我深刻体会到了与我的初印象相契合的和歌山的独特魅力。

初来和歌山，最先映入眼帘的是这里优美的景色。

正值樱花开放的时节，无论是大学里，还是通往神社的道路上，到处都种满了樱花。这里的樱花就如同和歌中描绘的一般，白中带着浅红，灿烂地开满了枝头，如云似霞，尤其是在天气晴朗的时候，非常夺目耀眼。微风吹过，花瓣零零碎碎地飘散，落在地上，铺满石阶和路的两旁，飘到河里，河水的波纹就成了花瓣的涟漪，很有诗意。

和歌山的雨天也很美。撑伞走在路上，可以看到大学附近的群峰浸在铅灰色的雾霭中，朦朦胧胧的，分不清边界。曾在雨天到和歌山城观光，淅淅沥沥的小雨里，游客很少，池塘很清澈，沾染了雨渍的叶子好像也更翠绿了。我忽然意识到，原来雨天也能成就别致的风景在这样幽静潮湿的氛围里呼吸着新鲜的空气，于和式庭园中感受那仿佛时间缓缓停滞的静谧情趣以及沁人心脾的清冷诧寂的格调，是一次印象深刻的经历。我领悟到，改变景色的从来不是天气好坏，而是我们接纳世界的态度。

留学生活不仅是不同风景的见证，更是文化视角的拓展。在和歌祭中，我扮演了唐人的角色，随着游行队伍走了一下午。在游行过程中，所见的都是身穿各式服装的人，耳边一直回荡着御船队伍咏唱的旋律。在经过人群时，在群众鞠躬问好时，我深刻感受到了和歌祭不只是传统活动，祭礼道具也不是博物馆里冰冷的展品，而是扎根在当地人血脉中的鲜活记忆。在快速发展的现代社会中，依然有人愿意为了目睹传统角色的风采而久久等待，依然有人愿意为了展现传统而换上过去的服装，穿上高高的木屐，走很远的路。我看到了对传统的尊重与热爱，以及当地文化的独特魅力。真正的文化栖居，从来不在书本里，而是传承在当地民众的节日记忆中。

我在和歌山看到的，不仅是樱花飘零与烟雨朦胧的风景之美，更是和歌祭中生生不息的文化遗产，以及“观者心境重塑风景”这一生命感悟。在这样的生活中，我切身领悟到了行走、观察与感受的重要性。在快节奏的现代社会中，要保持对自然的敬畏、对传统的尊重。要有一双发现美，欣赏自然的眼睛，有一颗珍重万物，不忘根本的心。我眼中的和歌山，是自然与文化的诗意栖居。